

令和 **ヴォイス**

THE VOICE 第65号

特 集

2020年度
理事長所信

2020年度
会員紹介



URL <http://www.iizuka-jc.com/>

Facebook <https://www.facebook.com/iizukajc/>

一般社団法人 飯塚青年会議所

JUNIOR CHAMBER INTERNATIONAL



和而不同

～飯塚から日本を変える～

一般社団法人飯塚青年会議所 第67代理事長 **麻生 将豊**

はじめに

戦後復興や、石炭景気が終わり、地域が疲弊していくことを憂いた先輩たちの強い思いから、一般社団法人飯塚青年会議所（以下、飯塚J.C）は66年前に誕生しました。以来、地域を少しでも「明るい豊かな社会」に近づけるために、先輩方の努力によって飯塚J.Cは発展を続けてきました。私は9歳まで飯塚で育ち、その後は県外で生活を送っていました。飯塚J.Cに入会するまで、人生の半分以上は地域外の土地で過ごしました。そして、この地域に対しては「ふるさと」という認識はありましたが、それ以上の気持ちは持っていなかったと思います。しかし、先輩たちからのお誘いもあって入会し、何も知らなかった自分に先輩方やメンバーから、地域のこと、地域の未来について考える姿勢を教えていただき、この地域に対しての思いは少しずつ変化してきました。今では飯塚J.Cのメンバーとして、先輩たちやメンバーから受けた教えを糧とし、地域のことを真剣に考えられるように育てていただいたと思っています。こうやって先輩たちから様々な形で地域のことを背中を通して教えられ、地域を少しでもよくしようとメンバーと切磋琢磨しながら必死に考えることで、JAYCEEになることができると考えます。そして、その教えを受け継ぎ、さらに進化させ、常に地域をよりよくしようと考え行動することこそが我々に課せられた使命だと考えます。だからこそ飯塚J.Cは、この地域の未来を仲間たちとともに真剣に考え、様々な手法で実施し、この地域をよりよくしようと高い志と行動をもって、どんな困難にぶつかるうと正面からそれを乗り越えていかなければならないと考えます。

まずは自らが成長するための例会運営

我々はJAYCEEである前に、経営者もしくはそれに携わるものです。経営が悪化すれば、当然J.Cを続けることはできませんし、地域の衰退を助長してしまうことになりまます。この地域をよりよくしようと思っている団体のメンバーがそんなことになっては絶対になりません。我々こそがこの地域で一番元気のいい企業を目指し、常に成長し続け、地域を発展させ続ける原動力とならなければならぬのです。我々には毎月1回をめぐりに行われる例会という機会があります。その例会をフル活用し、経営に役立つ手法、リーダーシップ、そして、自分の仕事の範囲を広げる方法を知る機会のこと、全メンバーの経営力の向上を目指します。この地域をより豊かに運営していくためにも、我々の活動をスピードを上げて推し進めるためにも、経営者としての経営力を高める機会とすることで運営していくことで、メンバーの会社を元気にし、全力で仕事とJ.C活動を行う環境を創造することがこの地域を持続的に成長させ地域を発展させることになると確信します。また、月1回メンバー全員が集う大切な場である例会で、メンバーの交流やJAYCEEとしての姿勢や意識を共有し、新入会員へ伝える場といたします。

全員で取り組む会員拡大と広報活動

「J.C」や「青年会議所」という名称を聞いたことがある人は大勢いますが、実際の活動内容を知っている人は関係者を除けば少ないのではないのでしょうか。その結果として、J.Cの本質を知ってもらえず、全国的にも会員拡大が難航していることが現状です。この問題を解消していくには我々自身がJ.Cを改めて理解し、メンバーだけでなく大勢の人に価値を正しくアピールしていくことこそが重要と考えます。そこで本年は、J.Cの価値を我々自身が再度考え理解し、地域の方々にアピールしていく活動に全力で取り組んでまいります。我々自身がスポークスマンとなって、価値と存在意義をより多くの人に知ってもらうことこそが、会員拡大の最大の原動力になり、最大の広報活動になるはずですので、メンバー全員が自分たちの活動を理解し、確固たる信念と誇りをもって周囲の人間に伝えていくことで、今以上に我々の存在理由を地域の方々に知っていただく機会を増やし、継続した会員拡大とメンバーの育成に繋がると確信します。全国のJ.Cが毎年3%程度の減少傾向にある中、飯塚J.Cは期初会員数に多少の増減はあるものの、増加傾向が強い数少ないLQMです。先輩たちから受け継がれた会員拡大の手法を確立し、会員拡大を継続し続けることで、J.Cにおける会員拡大の成功モデルとし、飯塚J.Cモデルを全国に展開してまいります。

持続可能な青少年育成地域コミュニティを作る

人間は実際に人と触れ合いながら体験したことや経験をしたこと以外、正しく情報を理解できないと考えます。しかし、今の時代は人と触れ合うことを簡単に避けられる環境が点在し、全ての情報は正誤かまわずインターネットを通じて簡単に手に入るようになりました。結果的に、体験や経験を基にしない知識だけが増えてしまい、物事を正しく判断することができなくなっているように感じます。こういったことが、昨今ニュースで社会を賑わす青少年の犯罪に繋がっているのではないのでしょうか。私が子どものころは近所に住む友人や、大人の人たちに様々な経験や体験をさせてもらって、社会常識や、善悪の判断基準を意識せずに理解していったように感じます。また、そこで触れ合った大人の人をおして、自分のなりたい大人像や職業を想像していたように思います。こういった地域コミュニティと共に育つことで、大人の自分への道を無意識に考えていく環境を創ることが、今後の持続可能な青少年を育む環境を生み出すのだと考えます。そこで本年は、地域の大人と子どもとの繋がりを作り、持続可能な地域ぐるみの青少年育成の方法を模索してまいります。そのなかで、我々が子

どものころに接していた地域のコミュニティの力を借りながら、地域全体で子育てをする意識を共有することで持続可能な地域ぐるみの青少年育成コミュニティを作り、子どもの笑顔あふれる地域づくりを行い、飯塚を日本のモデルケースとするよう活動してまいります。

スポーツツーリズムを通じた交流人口増加促進

物質的豊かさから、精神的豊かさと言われるようになって数年が過ぎた今、社会はどのように変質したでしょうか。国では働き方改革法案が可決され、長時間労働を是正し「家庭・地域で誰しも活躍できる社会」の実現を目指し国も大きく舵を切り、企業も雇用者の精神的な豊かさを追求すべく、大企業を中心に雇用形態や福利厚生面で様々な変化が始まっています。そんな今だからこそ、我々も精神的豊かさのあふれる社会を目指し、全力で進み続けなければなりません。この地域には豊かな自然と、「来るものを拒まず」というような寛容な人間性があると感じます。そして、これこそが地域の財産であり、忘れられつつある日本本来の姿であると感じます。我々はこの財産を最大限に生かし、地域内外の人との交流する機会を創造すべく、2018年度から続くスポーツツーリズムの考え方のもと、その魅力を地域内外に伝えることで、他地域からの交流人口を増やせると確信します。また、スポーツツーリズムを継続するにはボランティア、行政、そして、企業の三者からの持続的な協力体制の構築が必須だと考えます。我々がこの三者の架け橋となり、協力体制を今以上に強め大会を盛り上げていくことこそが持続可能な交流人口の増加に繋がると確信します。交流人口が増えるということは、大勢の人がこの地域を知り、興味を持ってもらえる機会が増え、訪れていただける可能性が高まるということです。この地域で行われるスポーツツーリズムを、観光と食に続く交流人口増加のモデルケースにし、早いすテニス大会に次ぐ第2の飯塚モデルとして全国に展開すべく事業の実行へ邁進することで、大勢の人が行き交い、まちに今以上の活気を生み、常に賑わうまちを創造してまいります。

このまちの未来のために

「消滅可能性都市」は記憶に新しい言葉です。私ははじめてこの言葉を聞いたとき、なんと言葉を作ったのだろうと思いました。まさかこの日本で都市が消滅するなど当時は考えてもいませんでしたし、我々の地域は関係ないし他人事のように考えていました。しかしながら、我々の住むこの地域も漏れなくその仲間入りをし、少なからず衝撃を受けた記憶があります。我々はこの地域を基盤にした青年経済人であり、その地域が消滅するということは我々会社の存続自体が危ぶまれるということです。では、こうした人口が増加しこの地域が豊かになるのか。それは、地域外の人や若者が流入し、その人たちが定住したくなるような環境整備や、この地域から巣立った人が将来飯塚に戻って住みたくなくなるような環境を地域と行政一体となって作り上げることだと考えます。この地域は福岡市まで車で50分弱、車でも1時間程度の好立地であり、生活費を考えれば福岡市内に住むことと比べ格安で生活が出来ます。そして、地域の環境と言えば緑も多く住やすい地域だと考えます。さらに、日本で唯一人口20万人以下の地域に3つの大学があり安定的に若者が訪れる環境も整っています。では、何が足りないのか。それは若者が住みたくなくなるまちになっていないことだと考えます。中心市街活性化においても、サービス付き高齢者向け住宅やバスセンターの整備などが中心的に行われましたが、これは若者にとってこの地域に住みたいと思える内容ではありません。事実大学生に聞いてみると、「福岡市内に住んで飯塚に通学している」や「飯塚に住んでいても遊びに行くのは福岡市が中心で、卒業し福岡にある企業に勤めるとしても飯塚には住まず福岡市内に住みたい」という声を多く聞きます。そこで、本年は若者と一緒になって、彼らが住み続けたいまちづくりや、将来飯塚に戻って住みたくなくなるまちづくりを考え、行政に提案してまいります。この方式で定住率を増加させることで、この地域を若者の笑顔があふれ、人口減少への歯止めをかける日本のモデルケースとすべく活動いたします。

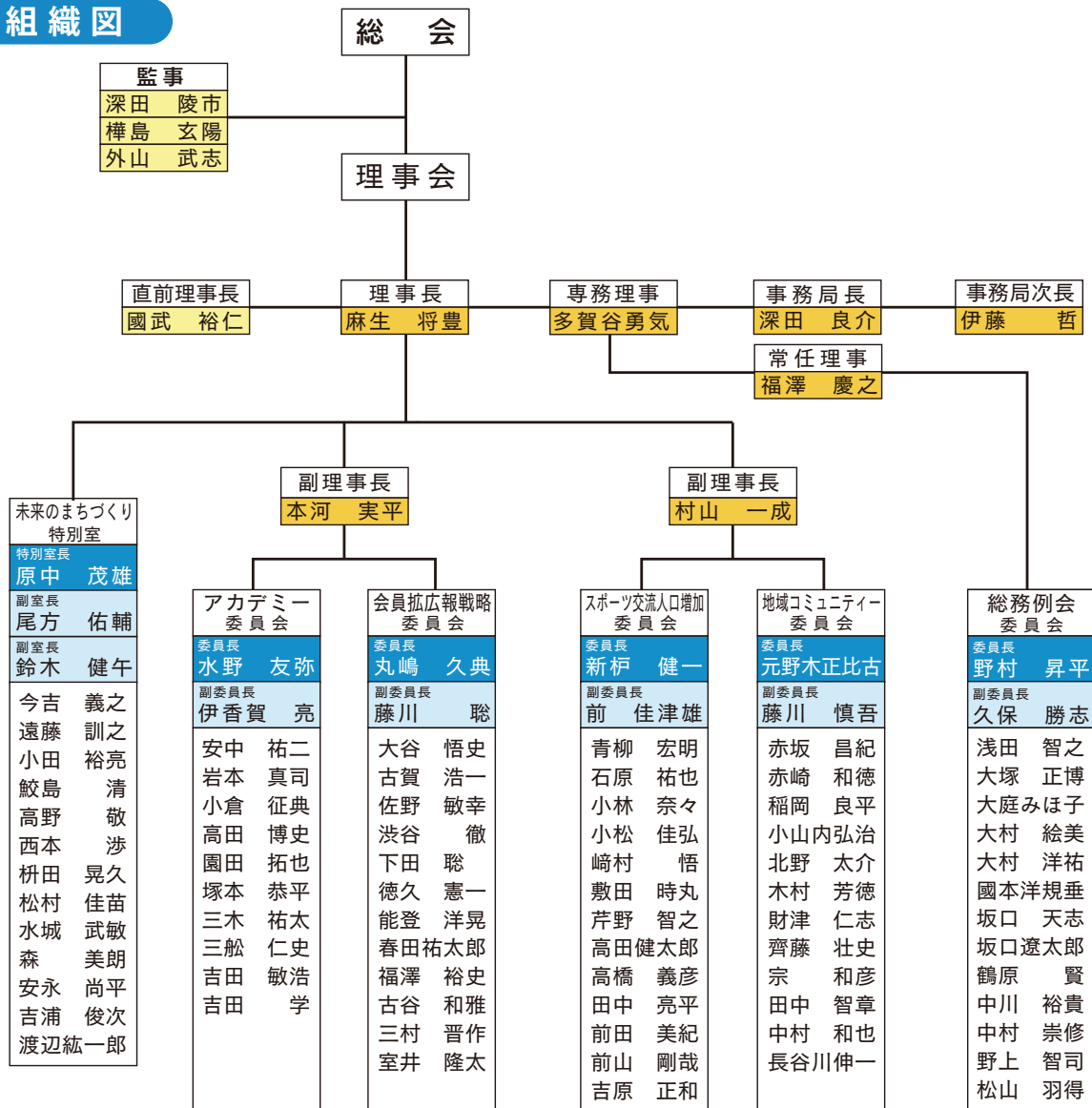
和而不同の精神をもって活動していく

「和而不同」という言葉はJ.Cにとって、大事な精神の1つではないかと考えます。「人と協力したとしても、むやみに意見や態度を同じにしないこと」。我々は、正副、理事会、委員会、常にこの精神のもと会議を重ねています。妥協することなく、より良い事業を行うため屈託のない意見を交わしあい議論をすることこそが、「和而不同」の精神だと考えます。そして、この言葉に表されるように確固たる信念のもとメンバー全員で活動を継続し、その信念のもとに創造される事業に対して、誠意と責任をもって活動する姿こそが、地域の方に感動を与えられるような事業を作り上げるのだと確信します。本年の対外事業は、この地域を日本のモデルケースとすべく活動していくことを基本理念としています。我々の地域がこの国の先進的なモデルケースとなり、飯塚から日本を変えるべくメンバーとともに全力で行動すること、例え小さな一歩だったとしても大きな波紋に繋がるよう飯塚から日本を変えるべく全力で進むことで、この地域を今以上に「明るい豊かな社会」にしていくことができると確信し、1年間を全力で邁進してまいります。

事業計画

- ・若者が住みたくなくなるまちづくり
- ・スポーツツーリズムを生かした交流人口増加
- ・持続可能な青少年育成地域コミュニティの創造
- ・自らの成長を促す例会運営
- ・J.Cに対して理解を深めてもらう広報活動
- ・新入会員がJ.Cを知るアカデミー事業
- ・全員で取り組む会員拡大
- ・全員で取り組むアカデミー育成
- ・全員で取り組む山笠運営
- ・台東国際青年商会との国際交流
- ・新春祝賀会、創立記念、忘年会の運営

組織図



理事長
麻生 将豊
麻生商事(株)
H23年入会

直前理事長
國武 裕仁
(有)システムハウジングタイセイ
H15年入会

副理事長
本河 実平
(株)本河住建
H26年入会

副理事長
村山 一成
(株)幸信
H29年入会

専務理事
多賀谷 勇氣
(株)多賀谷建設
H21年入会

常任理事
福澤 慶之
上嘉穂貨物自動車運送(株)
H19年入会

事務局長
深田 良介
(有)深田環境衛生
H26年入会

事務局次長
伊藤 哲
(株)WORKERS CARE
H30年入会

監事
深田 陵市
(有)南星観光
H18年入会

監事
樺島 玄陽
龍王ガス(株)
H23年入会

監事
外山 武志
(株)KMG
H21年入会

未来のまちづくり特別室



室長
原中 茂雄
(株)KRC
H23年入会

私はこの地域で生まれ育ち、故郷であるこの地域が大好きです。しかしこの地域も他の地方と同じく消滅可能性都市になっています。3校もの大学を有し、発展を続けている福岡市までのインフラ整備が整っているにも関わらず、実際に大学生を対象にアンケートを取った結果を調べてみると、この地域で就職したいと考える学生は学生全体の12パーセント、住みたいと考える学生は学生全体の5パーセントほどだったのです（平成27年度から令和1年度飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略参照）。この問題の本質は何なのか。それは若者がこの地域に関わりを持たずに生活をしているため、若者が住みたいと思えていないことだと考えます。

そこで今年度、未未来のまちづくり特別室では「若者が住みたくなるまちづくり」を目標に、まずは我々がこの地域の方々と共に若者との関わり方について真剣に考えて参ります。それから若者とこの地域に住む方々に繋がりを持っていただき、持続的に地域の方々若者が関わりを持つ仕組みを構築することが、将来の若者が住みたくなるまち、「日本のモデルケース」になると確信します。そしてこの運動を継続させていくためには、行政の力も必要になると考えるため、その協力を行政に提言していく所存です。

我々はこの地域で事業をおこなう青年経済人です。若者が住みたくなるまちづくりは、我々の会社のためにも今すぐにも取り組むべき課題で、問題解決のため積極的に行動しなければならないと考えます。若者が活発にこの地域で活躍し、住みたいと思えるようなまちづくりを創造できるよう、一般社団法人 飯塚青年会議所が、若者、地域、行政の架け橋となり、この取り組みが継続し、今後も醸成されていくよう「和而不同」の精神のもと一年間邁進して参ります。

そして当室会では忘年会の担いと運営があります。忘年会につきましては、総務例会委員会と協力の上、卒業生に対して、感謝の意を込めて運営いたします。現役メンバーは一年間の活動を振り返るとともに、次年度に向けての活力となるように運営いたします。最後に、今年度もたくさんの体験をさせていただきながら、常に困難に立ち向かわなければならないと思います。しかし、この問題は私たちの地域のため、会社のためだからこそメンバー全員を巻き込み、強烈な努力を持って仲間と共にチャレンジして参ります。



副室長
尾方 佑輔
Life Time Supporter
R1年入会



副室長
鈴木 健午
麻生商事(株)
H29年入会



今吉 義之
(株)パーソナルネット
H21年入会



遠藤 訓之
親和電設工業(株)
H26年入会



小田 裕亮
(有)明豊舗道
H29年入会



鮫島 清
あかね合同土地家屋調査士事務所
H29年入会



高野 敬
きぬや呉服店
H30年入会



西本 渉
西本工務店
H31年入会



栢田 晃久
栢田法律事務所
H26年入会



松村 佳苗
(有)ファーストビジョン
R1年入会



水城 武敏
ミスキ不動産
R1年入会



森 美朗
(株)リビングデザイン
R1年入会



安永 尚平
(有)ウエフ
R1年入会



吉浦 俊次
(株)ヨシウラ
H28年入会



渡辺 紘一郎
社会福祉法人
嘉穂郡社会福祉協会
H30年入会

アカデミー委員会



委員長
水野 友弥
みすみ建築設計事務所
H30年入会

私はこの地域で生まれ育ち、故郷であるこの地域が大好きです。しかしこの地域も他の地方と同じく消滅可能性都市になっています。3校もの大学を有し、発展を続けている福岡市までのインフラ整備が整っているにも関わらず、実際に大学生を対象にアンケートを取った結果を調べてみると、この地域で就職したいと考える学生は学生全体の12パーセント、住みたいと考える学生は学生全体の5パーセントほどだったのです（平成27年度から令和1年度飯塚市まち・ひと・しごと創生総合戦略参照）。この問題の本質は何なのか。それは若者がこの地域に関わりを持たずに生活をしているため、若者が住みたいと思えていないことだと考えます。

そこで今年度、未未来のまちづくり特別室では「若者が住みたくなるまちづくり」を目標に、まずは我々がこの地域の方々と共に若者との関わり方について真剣に考えて参ります。それから若者とこの地域に住む方々に繋がりを持っていただき、持続的に地域の方々若者が関わりを持つ仕組みを構築することが、将来の若者が住みたくなるまち、「日本のモデルケース」になると確信します。そしてこの運動を継続させていくためには、行政の力も必要になると考えるため、その協力を行政に提言していく所存です。

我々はこの地域で事業をおこなう青年経済人です。若者が住みたくなるまちづくりは、我々の会社のためにも今すぐにも取り組むべき課題で、問題解決のため積極的に行動しなければならないと考えます。若者が活発にこの地域で活躍し、住みたいと思えるようなまちづくりを創造できるよう、一般社団法人 飯塚青年会議所が、若者、地域、行政の架け橋となり、この取り組みが継続し、今後も醸成されていくよう「和而不同」の精神のもと一年間邁進して参ります。

そして当室会では忘年会の担いと運営があります。忘年会につきましては、総務例会委員会と協力の上、卒業生に対して、感謝の意を込めて運営いたします。現役メンバーは一年間の活動を振り返るとともに、次年度に向けての活力となるように運営いたします。最後に、今年度もたくさんの体験をさせていただきながら、常に困難に立ち向かわなければならないと思います。しかし、この問題は私たちの地域のため、会社のためだからこそメンバー全員を巻き込み、強烈な努力を持って仲間と共にチャレンジして参ります。



副委員長
伊香賀 亮
オフィスイコウガ
H25年入会



安中 祐二
(株)アイビーメディカル
H27年入会



岩本 真司
(有)サキオ
H26年入会



小倉 征典
小倉商店
H30年入会



高田 博史
(有)高田工業所
H25年入会



園田 拓也
園田建設
H30年入会



塚本 恭平
ホーホー堂
ひかり調剤薬局
R1年入会



三木 祐太
筑前庵
H21年入会



三船 仁史
(有)末廣
H26年入会



吉田 敏浩
筑豊印刷(株)
H26年入会



吉田 学
(株)大地
H30年入会

会員拡大広報戦略委員会



委員長
丸嶋 久典
(株)親和園
H29年入会

現在、一般社団法人 飯塚青年会議所（以下、飯塚JC）は県下3番目の会員数を誇っています。活動の規模も大きくなり、行政との連携や地域から参加される人数も増え、活動が引き起こす効果も大きくなってまいりました。しかし、この地域にはまだ飯塚JCの存在を知らない人が大勢いることも確かです。その背景にJCの価値を正しく地域全体に広報出来ないことが挙げられます。価値観は人それぞれ違い、また入会歴や経験などにより変化すると思えます。だからこそ、それぞれが改めて理解し、常に見つめ直す姿勢を持つことが重要です。また、個々の発信力だけでは地域全体に伝えることが難しく、伝える機会のためにも必要だと考えます。全国的に会員数が減少傾向にある中、飯塚JCも会員数が減少すれば、活動の縮小を引き起こし、行政との緻密な連携や地域との交流は後退してしまいます。それは、委員会や例会、事業など飯塚JC内での活動においても影をおとし、活気あふれる雰囲気や運営が困難になることを意味します。だからこそ、我々は地域全体に広報を行い、飯塚JCを活気づけ、会員を増やし続けていく必要があるのです。

そこでまず、飯塚JCの価値を見つめ直し、地域全体に発信することが出来る人材育成に取り組みます。長い歴史のなかで飯塚JCの価値は変化し続けてきましたが、諸先輩方が作られてきた歴史は今の我々の指針となっています。時代は変わっても我々も同じようにこの地域の発展のために、この後続く後輩のために飯塚JCの価値を見つめ直し、我々こそが飯塚JCの価値を広めていく人材であるという自覚を持つことが確固たる信念となり、会員拡大の大きな推進力となると確信します。

次に、飯塚JC全体が地域の方々に広く周知していく活動を行います。地域の方々に飯塚JCの存在意義や活動内容を知って、賛同をいただくことで入会に繋がり、メンバーと地域の方々との交流で新規対象者の紹介や情報を集めることができます。そして何より関心をもっていただいた方から新しい方を勧誘していただければ、加速度的に会員または会員候補者は増えていくはず。飯塚JCに関心を持つ人が増えていけば、地域での知名度は上がり、自ずと広報となっていきます。

そして、飯塚JCとして会員拡大の成功モデルを完成させ、全国のLOMに成功モデルケースを提唱できるように努めてまいります。

また、創立記念は諸先輩方の皆様に現役メンバーの成長を身近に見ていただき、また伝えることができる貴重な式典です。今まで以上に双方の率直な意見交換をしていただけるように努めてまいります。



副委員長
藤川 聡
藤川自動車(株)
H29年入会



大谷 悟史
大谷組
H29年入会



古賀 浩一
(有)セトコーポレーション
H22年入会



佐野 敏幸
(株)佐野組鐵工所
H30年入会



渋谷 徹
ピース運転代行
H31年入会



下田 聡
西日本シティ銀行飯塚支店
H29年入会



徳久 憲一
(株)福岡銀行
H29年入会



能登 洋晃
(有)かいた環境開発工業
H28年入会



春田祐太郎
(株)春田建設
H31年入会



福澤 裕史
Rudies Cafe・Rico Grill
H28年入会



古谷 和雅
(株)古谷金物店
H23年入会



三村 晋作
筑豊通運(株)
H30年入会



室井 隆太
ミソクルプロダクツ(株)
H27年入会

スポーツ交流人口増加委員会



委員長
新栞 健一
メットライフ生命保険(株)
H25年入会

私たち一般社団法人 飯塚青年会議所（以下、飯塚JC）は2018年度よりスポーツツーリズムの考え方を基に、新たな地域ブランド「スポーツのまち」を推し進めてまいりました。その活動は昨年、地域の方々や行政、企業の方々のご協力と共に、この地域の自然環境を活かした大規模なスポーツ大会の開催へと繋がり、大きな成果を上げることができました。そのスポーツ大会では、スポーツツーリズムを通じて多くの交流人口を生み出す可能性を見出したことと同時に、この地域に秘められた可能性や気付けなかった魅力の発見に繋がったこと。また、関係者の方々には「スポーツのまち」ブランドの推進に多くの共感をいただき大規模な運営を共に行えたことで意識の統一の重要性や運営における反省点を多く確認することができました。

そこで、当委員会は昨年の大会で感じた多くの可能性を具現化し、この地域の魅力として活用していくことや、実際に私たちが体感したことを活かしてスポーツツーリズムを通じた交流人口増加の促進を加速させていくことが重要だと考えます。

まず、持続可能な大会としていくために地域の方々全体のこのまちをよりよく変えていくという意識の統一が重要であるため、より多くの場でしっかりと伝えていくよう活動してまいります。また、運営に必要不可欠であるボランティア、行政、企業それぞれの経験を活かし特長を発揮していただけるように提案し、その力を最大限に活用していくことで、発展し続けるスポーツ大会運営となるよう努めます。そして、スポーツ大会を通じこの地域を訪れていただける方に、この地域の方々の人柄に触れていただき、関係性を持つ機会を増やした運営を行うことで、互いの関係は交流人口から関係人口へと変わっていくと確信いたします。そうすることで、大会期間中の交流に留まらず、あらゆる時に、この地域を訪れていただけるようになり、それは今以上にまちに活気を生み、常に賑わうまちへと繋がっていくと確信をもって、一年間邁進してまいります。

また、新春祝賀会を当委員会の担いとして「和而不同」～飯塚から日本を変える～のスローガンを掲げ2020年度の飯塚JCの方向性を示し、飯塚が日本を変えていく先駆けとしてふさわしい新春祝賀会を企画・運営いたします。



副委員長
前 佳津雄
(株)久衛組
R1年入会



青柳 宏明
(有)大丸装飾工業
R1年入会



石原 祐也
明成工業(有)
R1年入会



小林 奈々
ビップエコー飯塚店
H27年入会



小松 佳弘
(株)パーソナル・ガラス・フィックス
H23年入会



崎村 悟
ふみな工業(株)
R1年入会



敷田 時丸
福岡観光バス(株)
R1年入会



芹野 智之
たこ八
R1年入会



高田健太郎
たかた呉服店
R1年入会



高橋 義彦
福岡県議会議員
H27年入会



田中 亮平
(株)片島屋
R1年入会



前田 美紀
(株)ニッツー
H27年入会



前山 剛哉
(株)前山産業
H29年入会



吉原 正和
(株)愛和不動産
H27年入会

地域コミュニティー委員会



委員長
元野木正比古
(株)元野木書店
H29年入会

私たちは今まで様々な人に関わり支えられながら成長してきました。時代や流行が変化し、AIの活躍、ICTの普及、流通の変化により便利な世の中になっても、人と人の交流がなくなるはずがありません。世の中には様々な交流の機会がありますが、その交流の場の一つに地域の大人が運営する地域コミュニティーがあります。時代の変化とともに地域コミュニティーの形も変化してきています。私が小学生の頃は商店街の中で子どもたちだけで走り回ったり、駐車場で野球をしたりしました。店主の大人の目がどこにでもあり、イタズラをしては怒られた記憶があります。ところが、近年は子どもたちが遊ぶ安全な場所が減り、大人の方も減り、子どもは自身の保護者または、学校や習い事の責任者とばかり接しているように感じます。地元にある多数の魅力的なコミュニティーの存在に気づかず、参加の仕方わからず、様々な大人と接するチャンスを逸してしまうことは地域の子どものにとって大きな損失です。「昔子どもだった全ての人」が地域の魅力である寛容さを示し、地域ぐるみの子育ての当事者意識を持って「子ども」に接することができれば、最近では少なくなってきた大人と子どもの交流機会の増加につながり、子どもたちの未来へ大きな可能性が広がると信じています。

様々な大人と子どもたちが触れあうことで、インターネットやテレビゲームには無い人と人の交流の良さが伝わります。その後は、街なかや行事の際にすれ違う大人と子どもたちの間で挨拶が交わされ、良い成績を褒められて自信がつく体験や、怒られて善悪を覚える経験を積むことが増えていきます。子どもたちは大人から多くのことを学びます。多くのことを学び教わってもらう楽しさを知った子どもたちはさらに自分から大人に関わろうとします。そして子どもたち同士でも学んだことを共有していきます。そこで当委員会では、この関わりの連鎖が地域コミュニティーの役割と見え、その役割の効果を増やす事業を構築します。またこの連鎖を継続させることで持続可能な青少年育成地域コミュニティーの創出につなげます。

時代の変化に合わせた新しい地域コミュニティーのあり方を模索し、「大人と子どもが関わり合い、笑顔あふれる地域=飯塚」のモデルケース創出に向けてメンバー同取り組みていく所存です。
また、新春祝賀会を当委員会の担いとして「和而不同」～飯塚から日本を変える～のスローガンを掲げ2020年度の一般社団法人 飯塚青年会議所の方向性を示し、飯塚が日本を変えていく先駆けとしてふさわしい新春祝賀会を企画・運営いたします。



副委員長
藤川 慎吾
(株)ウイングセキュリティ
R1年入会



赤坂 昌紀
(株)緑親園
H20年入会



赤崎 和徳
赤崎牛
H29年入会



稲岡 良平
稲岡良平税理士事務所
H30年入会



小山内弘治
小山内工業
H29年入会



北野 太介
KITANO
R1年入会



木村 芳徳
(株)福岡中央銀行
R1年入会



財津 仁志
(合)内橋商店山田農産本舗
H26年入会



齊藤 壮史
(株)壮・縁土環境
H22年入会



宗 和彦
やしま整骨院
H23年入会



田中 智章
ダイニングバーダブル
H29年入会



中村 和也
福岡クリエイション開発(有)
H20年入会



長谷川伸一
(株)ワーキングハセガワ
H24年入会

総務例会委員会



委員長
野村昇平
飯塚信用金庫
H30年入会

私たち一般社団法人 飯塚青年会議所(以下、飯塚JC)は「明るい豊かな社会」の実現という理念を掲げ活動しています。諸先輩方から受け継いできた、このまちを明るい豊かなまちに変えていくという想いを私たちがさらに発展させていくためには、地域の将来を担う青年経済人である私たちが自ら率先して行動し、地域を変える原動力とならなければなりません。そのためには行動力は当然ながら、青年経済人として、また経営者として必要な経営力を持ち合わせていなければならないと考えます。

私はJCという様々な業種、立場の人材が集まり共に向上し合える環境こそ絶好の学びの機会であると考えます。しかしながら、これまで私たちは例会や事業、委員会活動において、会社経営に必要な知識、経験を学ぶ機会が少なかったのではないのでしょうか。そのため、私たち総務例会委員会では例会を通じ、自身の経営力を高めるため会社経営に関する実務的な知識はもちろんのこと、課題解決力やリーダーシップを始めとする経営者に求められるスキルを学ぶ機会を中心に提供していきます。メンバー一人ひとりが自身の経営力を高め、例会で学んだ知識、経験をそれぞれの今後のJC運動や所属企業に持ち帰ることで、私たち自身の発展はもとより、その後の地域経済の発展に必ず寄与すると確信いたします。また例会は月1回をめぐりにメンバー全員が集まる貴重な機会です。メンバー全員が一堂に会し理事長の想いを聞くことで飯塚JCが向かうべき方向性を共有するとともに、プライベートでは顔を会わせることが少ないメンバーや新入会員の考えや状況を知る機会を得ることで新たな人間関係の構築に繋がります。ひいては「AYCEE」としての姿勢や意識の共有化に繋がっていくと考えます。私たち総務例会委員会は例会という貴重な時間を無駄にすることがないよう、厳粛な式典運営を行いJCの一員という気持ちに切り替えていただくとともに、アワーに関しましてはメリハリをつけた楽しみつつも自己の成長、意識の共有化につながるような魅力ある内容を企画、運営してまいります。

また当委員会の担いとして、総会、忘年会の運営があります。総会につきましては飯塚JCの最高意思決定機関であり、メンバー一人ひとりの意思表示によって、今後の青年会議所の動向が決まる非常に重要な場であり、そのために適正な総会資料を確実に作成し、厳正かつ厳粛な運営を行います。忘年会につきましては、未来のまちづくり特別室と協力の上、卒業生に対して、感謝の意を込めて運営いたします。現役メンバーは一年間の活動を振り返るとともに、次年度に向けての活力となるように運営いたします。



副委員長
久保 勝志
飯塚信用金庫
H30年入会



浅田 智之
ダイワ印刷(株)
H24年入会



大塚 正博
(株)三信ビル管理
H20年入会



大庭みほ子
(株)コスモスハウス
aruk-ある暮らし-
H28年入会



大村 絵美
日本生命保険相互会社
R1年入会



大村 洋祐
(有)日本パボルナ
H26年入会



國本洋規垂
マルマツ産業(株)
H30年入会



坂口 天志
(株)飯塚電設
H21年入会



坂口遼太郎
喜怒哀楽酒場 うまづら
H31年入会



鶴原 賢
鶴原液化ガス(株)
H30年入会



中川 裕貴
ながわ証券アドバイザー(株)
H26年入会



中村 崇修
NPO boisson
R1年入会



野上 智司
(株)のかみ組
H22年入会



松山 羽得
(有)庄内衛生舎
H28年入会

新会員紹介



前 佳津雄

私は嘉麻市商工会青年部で部長をしています。青年部員と嘉麻市内で地域活性に繋がるべく様々な活動をしています。一番に掲げる問題は人口減少。この問題は嘉麻市内だけの活動では成果をあげるのには困難なことです。二市一町の若き力を集結して取り組むべき課題だと思い入会を決意しました。JCは「少しでもこの地域を豊かにする力になりたい」と、同じ目標を持つ熱き青年経済団体です。仕事では得ることのできない自己成長と地域への貢献をJCに入会して実践し共感しましょう。



藤川 慎吾

「本業とプライベートとJCを両立できるのか？」答えはすぐにできました。自分が考えていた限界は限界でなく通過点でした。私は人前に立って話すことや人とのコミュニケーションが得意ではありませんでした。しかし、この活動を通し、まだ自分は成長できるのだと実感しています。苦難にも一緒に立ち向かい、共に成長できる仲間ができる場所、JCとはそういう場所だと確信しています。会社の規模や年齢なんて関係ありません。一緒に飯塚を盛り上げましょう。オイサ！！



尾方 佑輔

私は県外からこの飯塚に来て、友人の紹介から飯塚青年会議所に入会しました。入会当初は青年会議所がどのようなものなのかよくわかっていませんでしたが、事業等の活動を通しメンバーの方々と関わらせてもらう中で、人として、また社会人としての在り方を教えて頂きました。メンバーには、事業だけでなく仕事やプライベートなことまで真摯に相談ののってくれます。青年会議所は、人として成長していく上でこれ以上ない環境であり、人の温かみを感じれる貴重なところだと思いますので、気になっている方は一度足を運んでみてください。



西本 渉

飯塚青年会議所に1月に入会しツール・ド・KAMAという大規模な事業携わり大変な時期もありましたがこの事業の達成感は何とも言えないものがありました。そしてなによりこの街・地域がよりいっそう好きになりました！
青年経済人として自分の為だけでなく人と人の関わりあいや地域の発展と共に自分も成長できたらなと思います。



木村 芳徳

私は、サラリーマンという立場で銀行の代表として今回入会しました。入会するとメンバーのみんなが飯塚の為に何が出来るかを必死に考えているんだなと感じました。JCの活動を通じて地域貢献をしていきたいですし、それに向かって活動を積極的に行っていきたいと思えます。色々な業種の方と話すことが出来るので学ぶことばかりで今後の自己の成長に繋がると思えます。



中村 崇修

飯塚青年会議所に入会させて頂いて感じたことは、他業種の多さに驚きました。さらに、今まで聞いたことのない職種を熱く語ることで出来る人が多く所属しているせいか私自信も仕事に誇りを持つことができました。今後、このような仕事に対して熱く語れる人が多くなるよう私自信も飯塚青年会議所の様々な事業を通じて増やしていければと思っております。



大村 絵美

私は知り合いに地元の繋がりを大事にした方がいいと言われ、縁あって、飯塚青年会議所に入会しました。他業種の方と接することで、色々な発見をすることが出来、自己成長に繋がっていると感じています。
会社員でもあり、2児のママでもあるので難しいこともありますが、家族に協力してもらい、自分出来ることを発揮していこうと考えています。





令和元年度 理事長総括



一般社団法人飯塚青年会議所
66代理事長

國武 裕仁

昨年、(一社)飯塚青年会議所は、新しい地域ブランド「スポーツのまち」を掲げました。その想いを引継ぎ本年度は、スポーツツーリズムの力を活用したサイクルイベント「ツールド・KAMA」を開催し、県内外の方々にこの地域の魅力である自然環境やおいしい食べ物、そしてこの地域の人の温かさを発信することができたと感じております。また、他の団体との協力により、地域が一体となっておこなうまちづくりのきっかけとなり、若い世代を中心に新しい輪がひろがりイノベーションをおこすきっかけになったのではないかと思います。まちづくりやひとづくり、そして情報発信においても、期待以上の成果をあげることができ、新しい課題を見つけるきっかけにもなりました。

さらに、対内向け事業も多く行いビジネスや今後の活動においても役立つ様々な知識や経験を得ることができ、新たな試みを実施することで、様々な気づきを得ることができました。

この一年、かけがえのない仲間たちと共に、このまちの未来、夢や浪漫を語り、「明るい豊かな社会の実現」に向かって志を立て、「勇往邁進」のスローガンのもと、恐れることなく勇ましく、確固たる信念をもって邁進していただいたことを、あらためて感謝と敬意を払いたいとおもいます。

おわりに、本年度、飯塚青年会議所に関わっていただきました、すべての方々に、そして、支えていただいたご家族、ご友人の皆様にごころから感謝を申し上げたいと思います。一年間ありがとうございました。

一年間の出来事



1月 新春祝賀会



1月 京都会議



2月 合同例会



3月 サッカー部福岡ブロック大会準優勝



4月 野球部ブロック大会進出



6月 ASPAC 2019 in 済州島



7月 創立記念



7月 飯塚山笠



9月 ツールド・KAMA開催



10月 全国大会 in 富山



11月 台東国際青年商会友好訪問



11月 大忘年会



スポーツツーリズム特別室

9月15日、嘉麻市・飯塚市・桂川町の自然環境と地域の魅力を発信するために参加者500名を超えるサイクリングイベント「ツール・ド・KAMA2019」を開催しました。また、同時開催として3歳児から5歳児までのお子さまが順位を競い合う「ランニングバイク選手権」・自転車関連の展示販売や試乗、また地域企業や自衛隊、警察、消防などの関係車両の展示による「サイクルエキスポ」といった自転車関連によるまち興しは、お子さまから、お年寄りの幅広い世代の方々からの参加をいただくことが出来ました。また、紆余曲折ありながらも参加者や関係者からの「よかった!」という一言は何ものにも代えがたい賜物となり、来年以降も持続可能なサイクリングイベントとなることを切に願います。

結びに、ツール・ド・KAMA2019の開催に際しまして深いご理解とご支援を賜りました協賛者の皆様に厚く御礼を申し上げます。また大会運営にご協力いただきましたボランティアの皆様、嘉麻市様、飯塚市様、桂川町様、そして出店業者の皆様のご支援に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



2市1町の市長、町長をお迎えし「ツール・ド・KAMA」の合同記者会見を実施



NHKの「はっけんTV」にてツール・ド・KAMAを告知



9月15日 ツール・ド・KAMAを開催



遠賀川やボタ山など、2市1町の素晴らしい景色の中を参加者の方に快走いただきました

1年間の活動

- 1月の活動 東京ディズニーランドへ親睦旅行
- 2月の活動 第1回ツール・ド・KAMA実行委員会
- 3月の活動 サイクルモードライド大阪を視察
- 4月の活動 車いすテニス大会のボランティア活動
- 5月の活動 バーベキュー&ホテル観察室会
- 6月の活動 稲築志耕館高校にて講演(鶴原)
- 7月の活動 竹切り作業・キャベツの定植・誕生日会
- 8月の活動 二市一町の首長様と共同記者発表
- 9月の活動 ツール・ド・KAMA2019開催
- 10月の活動 各種団体へ御礼まわり
- 11月の活動 ツール・ド・KAMA実行委員会の懇労会
- 12月の活動 一年間の集大成となる報告書の提出

会員拡大ブランディング委員会

今年度会員拡大ブランディング委員会では、「明るい豊かな社会の実現」に向けて、今後飯塚JCが運動や活動をするために、会員拡大を積極的におこない、このまちを本気で考えることができる青年を増やすため尽力して参りました。

1回目の事業では、飯塚JCをこの地域の方々に発信していくため、飯塚JCの価値について昭和、平成、令和を代表する歴代理事長による対談や、現役メンバーがグループワークをおこない飯塚JCの価値について改めて考えるような事業をおこないました。

2回目の事業では、私たちと同じような志を持ったこの地域のために頑張る青年団体と今以上に友好的な関係を築くため1年間かけて活動をおこない、「みんなの想いを食と調べにのせて〜極FINAL〜」を開催させていただきました。事業当日はスポーツやBBQを通して2市1町の青年が1つになり、熱い熱い1日となりました。この事業を通し、我々青年たちの想い「2市1町の青年の想いはひとつ」を合言葉に2市1町の青年が一つなれたと感じました。その結果として今年度は25人もの会員拡大に成功し、今後の効果的な会員拡大に繋がったと感じました。

この様に今年度、活動や運動をおこなえたのも先輩方や各青年団体のおかげだと思います。1年間、会員拡大ブランディング委員会に関わってくれた全ての方々に感謝します、ありがとうございました。



1回目事業「みんなのベストプレイス〜極〜」を開催



事業後の全体集合写真



2回目事業「みんなの想いを食と調べにのせて〜極FINAL〜」を開催



商工会青年部、JA青壮年部の方々との絆を深めました

1年間の活動

- 1月の活動 会員拡大活動
- 2月の活動 1回目事業構築 会員拡大活動
- 3月の活動 1回目事業構築 会員拡大活動
- 4月の活動 1回目事業構築 会員拡大活動
- 5月の活動 1回目事業構築 会員拡大活動
- 6月の活動 1回目事業「みんなのベストプレイス〜極〜」 会員拡大活動
- 7月の活動 2回目事業構築 会員拡大活動
- 8月の活動 2回目事業構築 会員拡大活動
- 9月の活動 2回目事業構築 会員拡大活動
- 10月の活動 2回目事業 「みんなの想いを食と調べにのせて〜極FINAL〜」
- 11月の活動 忘年会

総務エリアマーケティング委員会

本年度、総務エリアマーケティング委員会では、2つの事業、5回の総会を実施いたしました。1つ目の事業は、飯塚JCのメンバー向けに情報の受発信スキルを磨く事業を行い、東京でマーケティングなどの業務に携わるプロの講師の方よりワークショップを実施いただき、情報の受発信に関する知識を学ばせていただきました。また、2つ目の事業として、飯塚、嘉麻、桂川のイベント情報を集約したプラットフォーム「いいサーチ」の開発、及び、発表会を実施いたしました。「いいサーチ」の開発にあたっては、九州工業大学の卒業生に協力いただき、その後の運営は、飯塚観光協会様に引き継ぎをいたしました。発表会に関しては、この地域でイベントを主催されている団体やメディアをお招きし「いいサーチ」の開発目的や利用方法などを説明させていただきました。また、当委員会の担いである、総会に関しては、青年会議所の最高意思決定機関としての役割に相応しく厳粛な運営を実施いたしました。特に6月の総会に関しては、理事長の掲げる勇往邁進の精神に則り、飯塚青年会議所で初の試みとなるIT投票システムの実施にチャレンジし、無事に成功を収めて投票時間の大幅な時間短縮に成功いたしました。本年度、当委員会の活動にご協力いただきました全ての皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



対内事業「情報の受発信スキルを活用した飯塚JCの未来妄想ワークショップ」を開催



情報の受発信スキルを活用し各委員会・室の考えを発表しました



地域のイベント情報プラットフォーム「いいサーチ」の発表会



飯塚観光協会様に「いいサーチ」の管理権を移譲いたしました

1年間の活動

- 1月の活動 1月通常総会
- 2月の活動 事業構築
- 3月の活動 事業構築
- 4月の活動 情報の受発信スキルを活用した飯塚JCの未来妄想ワークショップ
- 5月の活動 事業構築
- 6月の活動 6月臨時総会
- 7月の活動 7月臨時総会
- 8月の活動 8月臨時総会
- 9月の活動 「いいサーチ」発表会
- 11月の活動 11月通常総会・忘年会
- 12月の活動 VOICE作成

例会委員会

私たち例会委員会は、様々な知識と経験を得ることで、青年経済人として成長できるよう1年間例会運営を行ってきました。初めのうちは運営にも慣れていませんでしたが、委員会メンバーと共に毎回改善を行ないながら例会運営を行ないました。

また、アワーでは色々な講師と打合せを行ない、貴重な経験をさせていただき多くのことを学ぶことができました。1年間例会の運営を行なうことができたのは、委員会メンバーや室長、副理事長の支えがあったからです。

また、1月の例会に来てくれたメンバーを見たときに嬉しさと共に、全メンバーが集まる貴重な時間を決して無駄にはいけないと思ったからです。本年度の例会は飯塚JCのメンバー1人ひとりに協力してもらい、メンバー全員に作ってもらったと思います。

このような貴重な経験をさせていただいたことを今後もこの地域のために活かしていきたいと思っています。



3月例会「生活習慣を見直し、健康寿命を延ばそう」



5月例会「K-WALLから嘉麻しちゃう体感型観光？」



8月例会「君は知っているか、マネジメントのいろはを」



9月例会「平和はどうやって守られているのか？」

1年間の活動

- 1月の活動 JCクイズ
- 2月の活動 2019年度 公益社団法人日本青年会議所九州地区福岡ブロック協議会会長公式訪問第2エリア合同例会
- 3月の活動 生活習慣を見直し、健康寿命を延ばそう
- 4月の活動 みんなで学ぼう！はじめてのSDGs
- 5月の活動 K-WALLから嘉麻しちゃう体感型観光？
- 6月の活動 出版社に学ぶ伝わる文章とは！！
- 7月の活動 健康度心～体幹トレーニング&リセットでカラダもココロもリフレッシュ！～
- 8月の活動 君は知っているか、マネジメントのいろはを
- 9月の活動 平和はどうやって守られているのか？
- 10月の活動 超達成力～万難を排す人材へ～
- 11月の活動 今までも、これからも

国際交流まちづくり委員会

本年度、国際交流まちづくり委員会は、理事長所信の基事業構築を行いました。1つ目の事業はインバウンドについて学ぶ講演事業を行い、今後地方にてインバウンド需要を継続していくには一部の地域で活動するのではなく、隣り合う地域（広域）での地域、行政が協力しあうことで交流人口が増加し、継続的なインバウンド需要に繋がっていくことを学びました。講演参加者にはインバウンドについて何が必要なのかを知っていただけたのではないかと思います。

2つ目の事業では、まずこの地域にいる外国人の方々はこの地域の魅力を知っていただき感じてもらい母国の家族、友人、関係者に SNS 等を用いて発信してもらった事業を行いました。インバウンドはすぐに結果ができることではないので継続的に発信することで交流人口を作り関係人口に繋がっていくことが今後の地域活性化に繋がっていくと確信します。また、飯塚青年会議所は台東国際青年商会と友好関係にあり交流が始まって43年になります。初めて台東の地に行かせてもらい台東 JC の方々のおもてなしに感銘を受けました。この台東 JC との友好関係は今後も継続していかなくてはならないと感じました。



事業「地域で繋げるインバウンドソリューション～地方創生～」を開催



國武理事長より講師への謝辞



事業「飯塚のまちと世界を結ぶ国際交流手形」を開催



多様な国の方々と一緒にとんちん焼きを食べ地域文化を感じていただきました

1年間の活動

- 1月の活動 事業構築
- 2月の活動 事業構築
- 3月の活動 事業構築
- 4月の活動 事業構築
- 5月の活動 事業構築
- 6月の活動 事業構築
- 7月の活動 創立記念
- 8月の活動 事業構築
- 9月の活動 地域で繋げるインバウンドソリューション～地方創生～事業
- 10月の活動 飯塚のまちと世界を結ぶ国際交流手形事業
- 11月の活動 台東国際青年商会友好訪問

未来創造委員会

私たち、未来創造委員会は本年度、変化に柔軟に対応できる人材育成の担いを頂きました。その一歩として、何事にも恐れずやってみようという気持ち「チャレンジ精神」を育むことを目的とした事業「Let's give it a try～自分たちでつくる楽しい学校～」を構築いたしました。嘉麻市立牛隈小学校4・5年生43名を対象に同校の運動場に子どもたち主体でバスケットコートを作り、作ったことをメディアに広報し、そのコートで全校生徒参加のバスケット大会を運営するという事業を行いました。本事業は、2ヶ月半の活動をとおして事業に至りました。4・5年生43名を7つの班に分けそれぞれの課題をクリアすることで、ひとつのものが出来上がるという事業でした。子どもたちは、やったことのない事や難しいことに挑戦しました。バスケットコートが出来上がったときの子どもたちの顔は達成感にみちあふれていました。また、子ども記者会見、大会運営を行ったあとはいい経験になりましたという声を多く聞きました。学校の先生方からは、いつも自信なさそうにしていた生徒が自信をもちいろんな事に活発に行動するようになったという言葉を受けました。本事業に参加した子どもたちは、この経験をもとにこれからの時代をたくましく生きていけると信じています。この事業にご賛同頂き協力頂いた牛隈小学校の先生方誠にありがとうございました。また、1年間ご協力頂いたメンバーの皆様ありがとうございました。



嘉麻市立牛隈小学校にて「Let's give it a try～自分たちでつくる楽しい学校～」活動開始



小学生と一緒にバスケットゴールなどを作成しました



完成したバスケットゴールの前で記念写真



事業の集大成として皆でバスケットの試合を行いました

1年間の活動

- 1月の活動 新春祝賀会運営
- 2月の活動 事業構築
- 3月の活動 事業構築
- 4月の活動 事業構築
- 5月の活動 事業構築
- 6月の活動 事業構築
- 7月の活動 「Let's give it a try～自分たちでつくる楽しい学校～」活動開始
- 8月の活動 事業活動・バスケットコート作成
- 9月の活動 事業活動・ベンチ・コート看板・注意書き看板作成
- 10月の活動 子ども記者会見開催・「Let's give it a try～自分たちでつくる楽しい学校～」実施
- 11月の活動 事業報告

リーダー育成委員会

本年度、当委員会は新年最初の三大事業である新春祝賀会の企画運営と國武理事長の所信を元にメンバー全員をリーダーへ育成する担いの2本柱で活動してきました。新春祝賀会では理事長の所信である飯塚青年会議所の指針を対外、対内の多くの方々にとって頂き賛同頂けるよう企画運営致しました。特に皆様から好評だったのが嶋田学園飯塚高校吹奏楽部の演奏でした。壇上を埋め尽くす部員と楽器を並べた演奏は本年度のテーマである『勇往邁進』のスローガンと調和し理事長の明るい豊かな社会の実現への覚悟と想いを来場された方々により一層お伝え出来たのではないかと思います。そして第1回目の事業は公益社団法人日本青年会議所九州地区長経験者である公益社団法人宗像青年会議所 OB の中村好成先輩をお招きし『魅力あるリーダーとは』について講演をして頂きました。その中で「仲間」「絆」などが特に青年会議所活動をする際に大事だと熱く語って頂き、ご自身でも「私がこの場に来れたのは仲間が支えてくれて地区長になり、そのおかげでたくさんの経験が出来、自身を磨くことが出来ました。」と発言されて、講演を聞いていたメンバーも感慨深く聞いていたのが目に焼き付いています。第2回目の事業はメンバーと何度も何度も会議を重ねましたが残念ながら開催することが出来ませんでした。しかし、多くの失敗を重ねそこから学んだ経験を糧に当メンバーがこれからの飯塚青年会議所を背負って立つリーダーになることを強く願います。最後に活動期間中に御支援、御協力を賜りました全ての方々へ感謝と御礼申し上げます。一年間本当にありがとうございました。



公益社団法人宗像青年会議所OBの中村好成先輩より『魅力あるリーダーとは』について講演いただきました



メンバーと魅力あるリーダーについて語り合いました



「仲間」「絆」などリーダーにとって大事な要素を学びました



中村好成先輩と國武理事長

1年間の活動

- 1月の活動 新春祝賀会
- 2月の活動 第1回事業企画
- 3月の活動 第1回事業構築
- 4月の活動 第1回事業構築
- 5月の活動 第1回事業「魅力あるリーダーとは」
- 6月の活動 第2回事業企画
- 7月の活動 第2回事業企画
- 8月の活動 第2回事業構築
- 9月の活動 第2回事業構築
- 11月の活動 委員会で文殊仙寺に護摩焚き

丸嶋委員長が

あなただけに教える



飯塚JCに入ったら

こんなイイ事がある

9の話!

お話その①

地域内外問わず多くの人脈を作ることが出来る

お話その②

時間管理・業務管理が自然と身につく

お話その③

組織運営における役割分担制を知ることが出来る

お話その④

地域の今を知り、もっと好きになれる

お話その⑤

多種他業種の仕事を知り、事業の幅を広げる機会を得られる

お話その⑥

会議運営のノウハウが身につく

お話その⑦

人を動かすものは情熱だと知る

お話その⑧

失敗して恥を捨て知見を広げる場所

お話その⑨

100名を超える仲間と涙が出るほど感動できる

JCによくある質問を卒業メンバーに答えてもらいました！

Q

A

飯塚JCメンバーに 突撃取材！！



Q

JC って大変そうで、仕事や家庭に支障が出そうってイメージ・・・

もちろん会員全員仕事をして、家庭や恋人、友達がいます。JCの影響で仕事やプライベートに支障を出しているは本末転倒です。しかし、JCは時間管理を学ぶ場所ではあります。これまで以上にJC以外の時間を大切にされていると思いますよ。

A

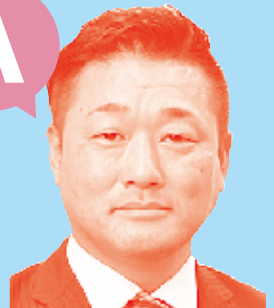


Q

JC ってお酒を飲む機会が多いと思われる方もいますが・・・

それは噂というかイメージですね（笑）。たしかによく呑む人もいますが、その反対に呑まない人もいます。正直、懇親会や仲間内で呑む機会は多々ありますが、呑みたい人や参加したい人が行けば良いのです。無理して参加するものではありませんし、断ることもまた学びです。

A

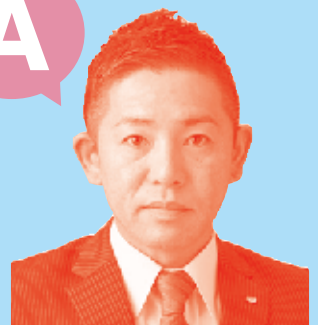


Q

JCの会費って高いイメージがあるし、その他にもお金がかかりそう・・・

会費などの費用として月額13,000円程度必要となります。また、その他に懇親会に参加する場合は別途参加費が必要です。JCでは例会での勉強会のようなものや無料セミナーを毎月行っています。毎月何万円もするセミナーに参加するよりは、より多くの学びの機会を得られるのではないかと思いますよ。

A



(一社)飯塚青年会議所は、
あなたの力を求めています!

会 員 集 募

青年会議所は20歳から40歳までの情熱ある青年の団体です。

指導者たらんとする青年の団体です。私たちは現在、国内 697 余りの都市に約 36,500 人の会員を擁し、全世界 130 カ国の国及び地域に活動拠点があります。青年会議所の事業目的は”社会人と人間の開発”です。私たちは市民社会の一員として、民の共感するを求めて社会開発計画に基づいた活動を行い、「自由」を基調とした民主的な指導能力の開発を推し進めています。



フェイスブックは
こちら!



ホームページは
こちら!

対象者: 飯塚市、嘉麻市、桂川町に住所または勤務地を有する20歳から37歳までの健全な方であれば男女は問いません。
詳しくは下記(一社)飯塚青年会議所事務局までお問い合わせください。

お問合わせ先

〒820-0017 福岡県飯塚市菰田西3丁目18-11 TEL0948-23-0292 FAX0948-24-3471